

巻 頭 言

人間発達学部学部長

前 田 隆 昭

人間発達学部は、地域に根ざし、人間発達に関わる人材育成を目的に「人の育ちと地域の育ち」を支援する学部として平成22年に開設された。開設以来、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・特別支援学校教諭をはじめ、子どもたちの幼児期・学童期を支える人材の養成・地域社会に貢献する専門家の育成に取り組んできた。また、「子どもの学び研究所」「子育て支援センター」「環境教育センター」の3つの附属機関も地域活動に取り組んできた。

子どもの育ちをめぐる環境は、ダイバーシティー（多様性）という用語に象徴されるよう著しい社会変化に伴い、新たな課題を生んでいる。そのため、さらなる専門性と対応力を備えた人材の育成が求められている。そこで、人間発達学部子ども教育学科は、社会的要請に応じ、複雑化する社会課題の解決に寄与する必要がある。

本学部では、令和の時代を機に南九州大学の歴史と特性を基盤にして、時代の要請する専門性を備えた「子どもスペシャリスト」の養成を新たな目的に掲げた。これは、既存の保育、幼稚園、小学校に求められていた専門性を基盤として、特別支援教諭免許を保育者希望者も取得可能とするものである。すなわち、資格取得の先を見据えたプロフェッショナルへとつながるキャリア形成が主眼といえる。同時に、SDGsを踏まえ、ケアのプロとして「持続可能な地域社会」の形成と維持に寄与していく。本年度は、この理念を可視化し、教員の意識統一とともに大学内外に、そのコンセプトの普遍化に取り組んだ。

本年度は、オンザジョブ型リカレント教育の形態により「都城市および近隣自治体における子育て支援の専門性向上に資する研修事業」を開始した。対象は、自治体もしくは中核的役割を有する保育者、小学校、特別支援学校教員、社会福祉法人、NPOなどとした。本事業の目的は、近隣自治体の関連する領域の職員資質向上や近隣領域間のネットワーク構築に寄与することなどである。また、昨年度に引き続き、コロナ禍で高校での進路ガイダンスや模擬授業等中止が相次いだが、新たに、子ども教育学科 インスタグラム、リットリンク等SNSによる情報発信を試みた。このように、新しい取り組みを行いながら、SDGsを踏まえて社会課題の解決にも挑戦していく本学部の役割は、一層重要性を増している。

本書には、以上のような学部独自の取り組みに加え、日々の教育実践や研究の成果が報告されている。関係者の方々の忌憚のないご意見ご感想を頂けると幸いです。